



霧が丘学園らしい教育課程をつくる ～社会の変化を見据えて チェンジ&チャレンジ!～

准校長 岡崎 恵子

横浜市には、現在3校の義務教育学校があり、1年生から9年生まで継ぎ目のない教育を推進しています。霧が丘学園は横浜市で初の義務教育学校です。今年で小中一貫校として14年目（義務教育学校として8年目）となります。子どもたちに必要な力は何かを考え、それを育むためにこれまで様々な取組をしてきました。

コロナ禍で教育活動の制限をせざるを得ない状況を経て、今改めて「霧が丘学園らしい・霧が丘学園ならではの」の特色ある取組は何か、子どもたちにどのような力を育ててきたのか、小学部と中学部の職員が一同に会して語り合い、教育課程（カリキュラム）の見直しをしています。取組としては、「きりたまタイム（1年生から9年生までのたてわり活動）」と「あすなる（中学部の劇）」が挙げられました。そして以下のような意見が出されました。

「上級生が下級生に思いやりをもって接している姿、下級生が上級生を慕う姿に感動する。」「1年生から9年生までと一緒に活動することで、多様な関わりが見られる。その中で、リーダー性を磨いたり、自分のよさに気付いたりしている。」「今後は決められたことをできるだけではなく、自分たちでゼロからつくりあげる経験をしてほしい。」「失敗することも経験し、たくましく育ってほしい。」等とても充実した時間となりました。さらに話し合いを重ねていきます。



【話し合ったことを共有する様子】

教育活動を始める際には、目的や内容、そして携わるすべての人の思いがあります。しかし続けているうちに形骸化したり目的が不明確になったりすることがあります。だからこそ、社会の変化を見据えて教育活動を見直し、必要に応じてチェンジしたり新しくチャレンジしたりすることが必要です。来年度は小中一貫校として15年目を迎えます。霧が丘学園をどんな学校にしていきたいかを子どもたちに問うたり、地域・保護者の皆様と、学校運営協議会や懇談会・面談、日々の交流等で語り合ったりすることをおして、霧が丘学園らしい教育課程をつくり、子どもたちを育てていきたいと思えます。

職員が日々、教育活動に尽力できるのは、支えてくださるご家庭・地域の皆様のおかげです。ありがとうございます。夢と希望をもって子どもたちへの期待を語り合う職員の姿に、霧が丘学園の更なる発展を再認識しました。

【お礼】9月13日～14日、小学部4年生が上郷で、中学部個別支援学級が愛川で、宿泊体験学習を行いました。自分の役割をやり遂げる姿、みんなで一つのことをつくり上げる姿などが光っていました。これで今年度予定していた全ての宿泊体験学習を無事に終えました。ご理解とご協力をありがとうございました。

【学校の様子をホームページにてお知らせしています】
各学年の活動や、学校からのお知らせを掲載しております。ぜひ、ご覧ください。
<霧が丘学園ホームページ>
URL <https://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es-jhs/kirigaoka/>



QRコード